

◆ 今週のコメント

- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は、0.06(4例)で、第12週の0.04(3例)に引き続き、報告数は数例となっています。
- ・ 流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、0.95(39例)で、本年度で最も多く、第4週以降、過去5年平均値を上回る状態が続いています。年齢では、4歳が20.5%(8例)と最も多く、3～5歳で53.8%(21例)を占めています。
- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は、1.05(43例)で、過去5年平均値(0.66)を顕著に上回る値となっています。年齢階級別では、0～19歳で報告があり、なかでも6歳が18.6%(8例)と最も多くなっています。

◆ 今週のトピックス: <水痘>

水痘の定点当たり報告数は、1.95(80例)で、本市、全国共に、本年度で最も多い報告数となっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

ありません。

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.06	4
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	5.07	208
	② 水痘	1.95	80
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.05	43
	④ 流行性耳下腺炎	0.95	39
	⑤ 手足口病	0.46	19
眼科	流行性角結膜炎	0.70	7

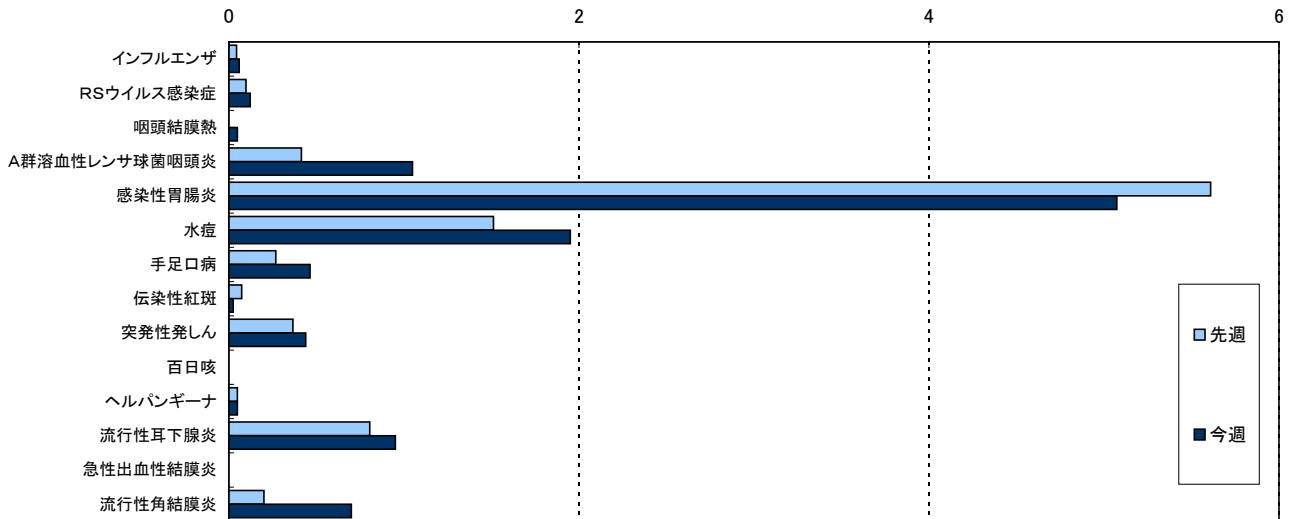
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <水痘>

(注) 京都市のデータは、平成22年4月8日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。

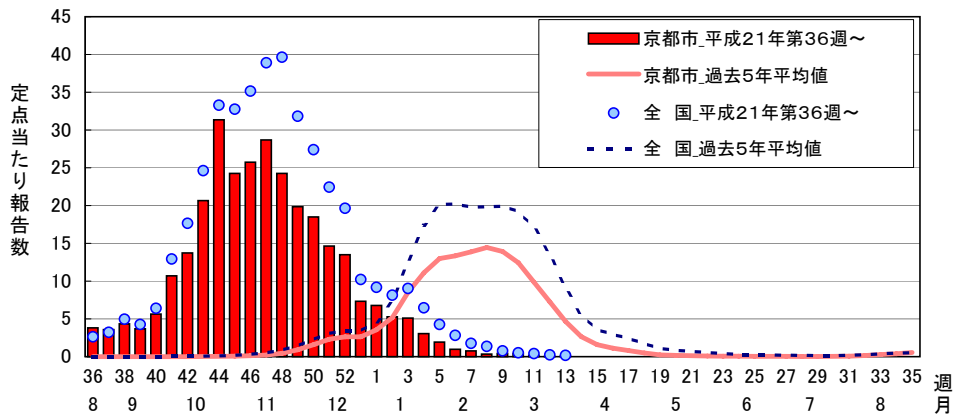
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第13週)と先週(第12週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第9週	29
第10週	29
第11週	12
第12週	3
第13週	4
累積報告数 (第36週以降)	20,375

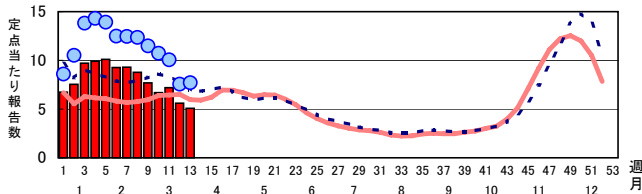


※ なお、平成21年第30週以降には、新型インフルエンザ(A/H1N1)の報告が含まれています。

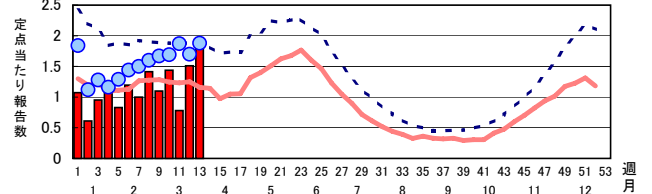
3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

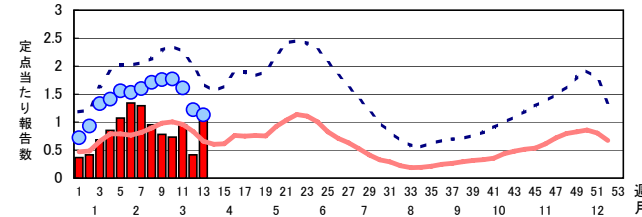
1 感染性胃腸炎



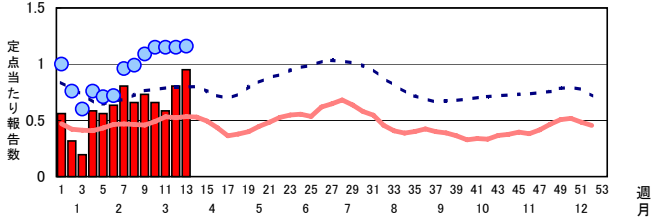
2 水痘



3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

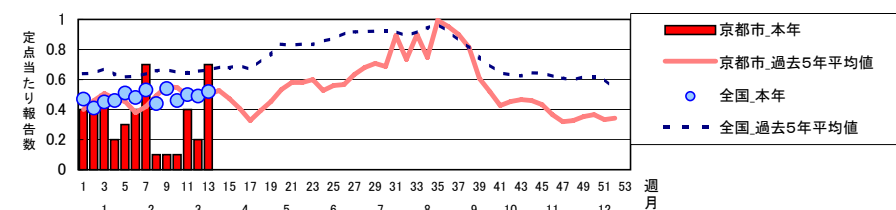


4 流行性耳下腺炎



<眼科定点>

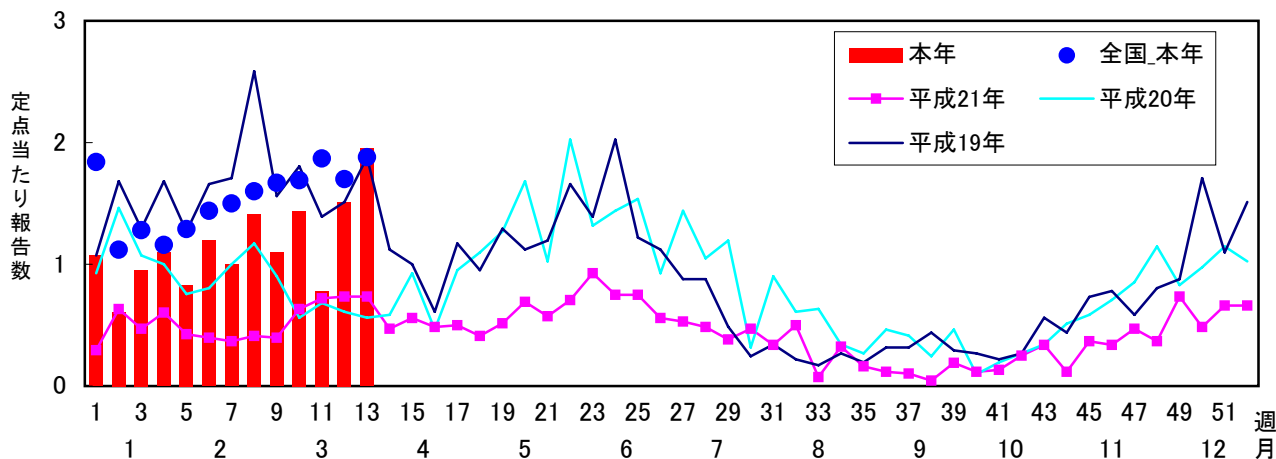
流行性角結膜炎



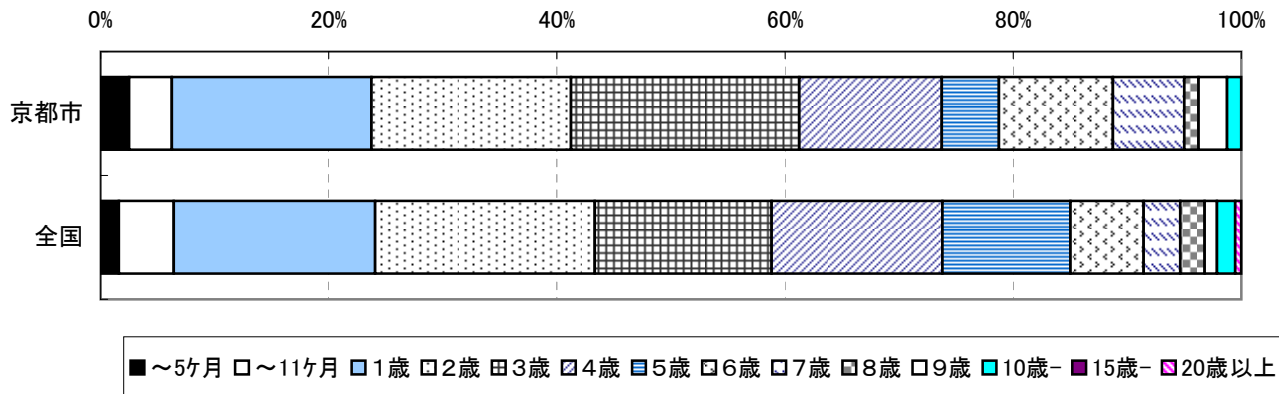
第13週(3月29日～4月4日)トピックス: <水痘>

水痘の定点当たり報告数は、1.95(80例)で、本市、全国共に、本年度で最も多い報告数となっています。年齢別では、本市、全国共に、4歳以下で7割以上を占めています。行政区別では、下京区を除く、すべての行政区から報告があり、南区、伏見区の順に多くなっています。

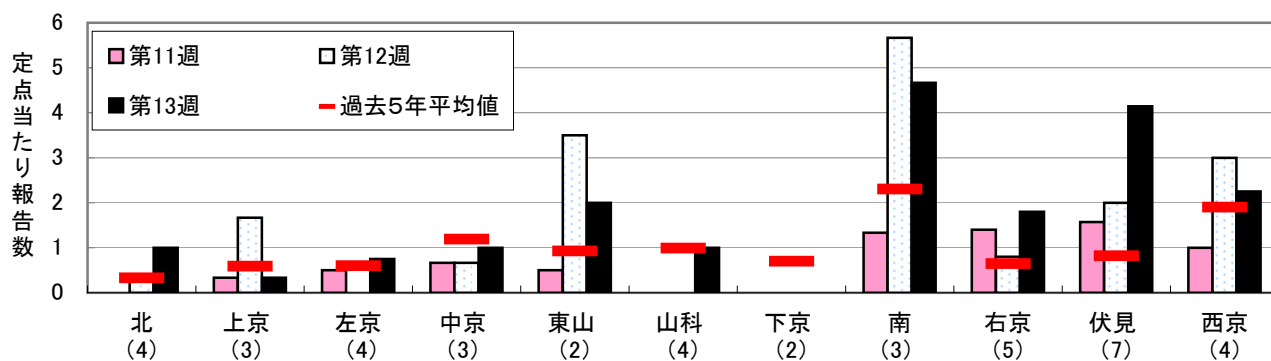
本市の定点当たり報告数の推移(平成19年～平成22年第13週)



年齢階級別構成割合(第13週)



行政区別定点当たり報告数の推移



(注) 定点にどのような医療機関が含まれているかによって、北や上京、左京などでは例年、定点当たり報告数が低くなる傾向があります。